政務活動調査報告書

調査日	平成 30 年５月８日（火）
視察場所	北海道岩見沢市
調査項目	生活サポートセンター「りんく」について
視察者名	畑尻宣長　　野島さつき
市の概要	面積：481.02 ㎢　　人口：84,691 人　　人口密度：176.06 人/㎢ 世帯：41,949 世帯　経常収支比率：92.4%　実質公債費比率：6.8%

＜生活サポートセンター「りんく」とは＞

平成２７年４月から施行された生活困窮者自立支援法に基づき、岩見沢市が設置した施設で、生活や就労に困っている方の悩みを聞き、相談支援員が本人と一緒に解決プランを考え、プランに基づき問題解決に向けたお手伝いをします。ひとり一人のペースに合わせたサポートを行い、自立を目指します。

支援対象者と関係機関・地域との繋がり（リンク）を作り、関係機関どうしが輪（リンク）になって生活困窮者を支援する場であると考え、愛称を“りんく”にしました。

＜サービス内容＞

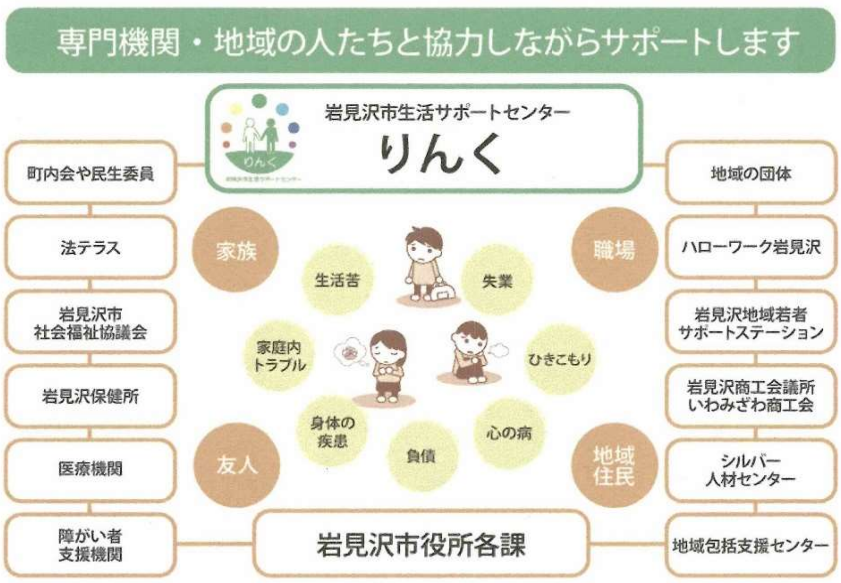
相談支援事業・・早期発見・支援のために社会資源と連携

相談支援員による相談受付（電話相談・訪問相談も可能）

困りごとの確認 → 一緒に解決プランの作成 → 専門機関・地域の方との連携支援 → 問題解決へ

巡回相談（岩見沢市役所、ハローワーク岩見沢）

弁護士による無料法律相談



就労準備支援プログラム・・その人に合った・その人に必要な支援メニューを選択して訓練

ステップ１　生活自立支援訓練

たのしみ隊＝レクリエーション活動を通して生活習慣の改善や他者との関係づくりを学びます。※居場所機能

ま な び 隊＝基礎学力に自信がなく不安を感じている人が、常用漢字や四則計算などを学びます。

ステップ２　社会自立支援訓練

しごと見学隊＝市内の企業へ職場見学して疑問に感じたこと等を働いている方に質問し、調べる力や質問する力を身につけるとともに、就労意欲を高めます。※地域との連携

た い け ん 隊＝地域のボランティアやプロジェクト活動に参加して、就労に必要とされる自信・経験及び能力を身につけます。※地域との連携

ステップ３　就労自立支援訓練

はたらき研＝「働くとは、そもそもどういうことなのか？」参加者同士やゲストの話を聞いたり、知識を身に付けながら、働くことについて考えます。

はたらき隊＝就職にあたっての心構え、応募書類・履歴書の書き方、模擬面接等本格的な就職活動に向け必要な知識・技能を学びます。

パソコン隊＝就職活動や就労において必要となるパソコンの基本的な操作を学びます。パソコン本体の取り扱いのほか、ワープロソフト・表計算ソフトの効果的な使い方を学びます。

就労支援・・求職活動中の方なら誰でも利用可

求人検索➡パソコン２台常設、早期就職・就労定着を目的に、事業所・求職者双方へのサポート

① 採用面接前の職場見学・体験
② 採用面接へのりんく支援員の同行
③
④ 採用後の職場定着支援

住居確保給付金・・離職等により住居を喪失した方、または住居を喪失するおそれのある方を対象に、住居確保給付金を支給し、相談支援員による就労支援等を実施

その他のプログラム

就活セミナー➡月２回開催

３ヶ月間（全６回）をクラス制で実施
ハローワークの興味検査
実際の職場でのジョブトレーニング

ミニ女子会➡月２回開催

女性指導員が担当する女子会
塗り絵、裁縫など個人作業に取り組みながら、参加者同士で少しだけコミュニケーションを取る練習プログラム

＜新しい動き＞

栄通り商店街との連携

- 月１回の清掃活動への参加
- 就労準備支援プログラムへ講師として参加
- 千人踊り参加者へのお茶の配布
- 百餅祭り、大臼の綱引きへ参加
- 飲食店やデイサービスでの職場体験
- キャンドルナイトへの参加
- りんく祭りでのスタンプラリーへの協力
- 選果場でのアルバイト

＜就労支援の実績＞

平成 28 年度・・・16 社 42 求人、20 名採用
平成 29 年度・・・17 社 58 求人、12 名採用
地域事業所の職場体験・アルバイト採用

＜まとめ＞

岩見沢市生活サポートセンター「りんく」は、

- ✧ 経済的問題・健康問題・家庭問題など様々な困り事、悩みを相談したい、解決したいときに相談に乗ってもらえる場所である。
- ✧ 誰もが地域で安心して自立した生活を営めるよう、専門機関等と連携しながら自立に向けたサポートをする。
- ✧ 福祉的支援が必要な場合は、福祉関連の事業所等と連携し、必要な支援が受けられるよう綿密な連携を図る。
- ✧ 就労支援を必要とする方には、職業相談・職業紹介業務へとつなげる。

悩み事を解決できるよう寄り添いながら、一緒にお手伝いをします。

＜所　感＞・・・畑尻宣長

岩見沢市での生活困窮者に対する事業として、岩見沢市生活サポートセンター「りんく」について学ばせて頂きました。平成 27 年 4 月から施行された生活困窮者自立支援法に基づき、生活や就労に困っている方の悩みを聞いて、相談支援員と一緒に解決プランを考え、プランに基づき問題解決に向けたお手伝いをしてくれるのが、市から委託を受けている「りんく」です。「りんく」の愛称の由来は、生活困窮者自立支援制度は、相談支援・就労支援を行う制度ではないと考えます。支援対象者と関係機関のネットワーク。関係機関同士のネットワークを構築し、社会資源の活用・開発を行う制度です。そこで、岩見沢市生活サポートセンターは、支援対象者と関係機関・地域とのつながり（リンク）を作り、関係機関どうしが輪（リンク）になって、生活困窮者を支援する場であると考えました。

相談内容は、仕事が出来るか自信が持てない。仕事を探しているが、自分に合った仕事が見つからない。収入が無く、家賃を払うことが出来ない。借金の返済が多く、今の仕事だけでは生活が苦しい。生活に困っているけど、どこに相談していいかわからない。障がいや疾病、家族の問題などがあるが働きたい。ひきこもっている。などがあります。

「りんく」での生活困窮者の課題の統計を取ると、仕事探し、就職について断トツに多いことがわかりました。次いで、病気、健康、障がいのこととなっています。

就労に向けて、就労準備支援プログラムがあります。ステップ 1 として、生活自立支援訓練として「楽しみ隊」「まなび隊」があります。「楽しみ隊」は週一回の居場所機能を持たせたものになっており、「まなび隊」は、週一回、基礎学力に自信がなく不安を感じている人が常用漢字、熟語、ことわざなどを学びます。

ステップ２は、社会自立支援訓練として「たいけん隊」「しごと見学隊」があります。「たいけん隊」は、月に２～３回程度、地域イベントやプロジェクト活動に参加して、就労に必要とされる自信、経験及び能力を身につけます。例えば、商店街の各種活動、教育大学あそびプロジェクトなどがあります。「しごと見学隊」は、職場を見学し、職種のイメージづくりをします。例えば、清掃業者、A 型事業所などです。地域との連携が出来るようになります。

ステップ３は、就労自立支援訓練として「はたらき研」「はたらき隊」「パソコン隊」があります。「はたらき研」は週一回、働くこと、社会保障について知識を身につけながら学んでいきます。「はたらき隊」は、随時、希望に応じて職場体験を実施します。「パソコン隊」は、パソコンの基本操作について、個々の習熟度に応じて学んでいきます。
というように、段階を経ながら徐々に就労出来るようなプログラムとなっています。いろんな相談があるように、個々で状況が異なります。それを網羅できるようなプログラムが準備出来ているところが、手厚い支援だと感じるところです。これは、本市でもやってくれるようなところを探し出し、実行してほしいと思いました。

りんくの就労支援で「無料職業紹介」を行っています。これは、平成２８年４月より、リンク独自の求人を開拓し、求人情報を提示し、職業紹介を行っています。紹介するだけでなく、早期就職、就労定着を目的に事業所、求職者双方へのサポートも実施しています。平成２９年度実績は、１７社の５８求人、１２名の採用に繋がり実績を積んでいます。

働きたくても働けない障がい者はたくさん見えます。どこまでも寄り添って、成長できる仕組みが、りんくにはあるように思います。本市でもこのような支援が出来るよう働きかけていきたいと考えています。

＜所　感＞・・・野島さつき

生活サポートセンター「りんく」は、函館本線岩見沢駅から徒歩５分ほどの栄通り商店街の一角にあります。何かの店舗だったものを借り受け、事務所兼作業所として利用しています。生活困窮者自立支援法が施行される前の、平成 25 年から生活困窮者自立促進支援モデル事業として取り組んできたそうです。プロポーザル方式で選定された受託団体 NPO 法人コミュニティワーク研究実践センターが、岩見沢市より委託を受けて運営しています。

相談は多岐にわたっており、例えば「仕事ができるか自信が持てない」「収入が無く、家賃を払う事ができない」「借金の返済が多く、今の仕事だけでは生活が苦しい」「ひきこもっている」などで、生活する上で困ったことがあれば、何でも相談に乗ってくれます。平成 29 年度の生活困窮者相談者数は 112 名で、その内訳は 20 代が 30 人、30 代が 19 人、40 代 14 人、50 代 26 人等、半数以上が 50 歳未満でした。抱えている課題で一番多いのは、「仕事探し・就職について」、次いで「病気・健康・障害のこと」「収入・生活費のこと」となっていました。ニーズに応じた支援が行われるように一人一人に自立支援計画を作成し、専門家や地域の人たちみんなで協力しながらサポートします。解決まで平均 280 日を要したそうですが、職員が親身に寄り添い、自信がもてるよう支えています。

「りんく」のある栄通り商店街との連携も進んでいますが、その陰には、センター長が商店街の行事や清掃など町内活動に積極的に取り組み、「りんく」への理解を深める並々ならぬ努力をしています。就労準備支援プログラム参加者が中心となり、地域の小学生を対象にしたお祭りを企画・実施。工作ワークショップや商店街と連携したスタンプラリー、出店を楽しんだり、「りんくのある街ＰＶ」を制作・放映するなど、商店街の振興にも一役買いました。地域と交流することで、地域事業所から仕事体験・アルバイトとして採用して頂いたり、新しい動きもでてきました。センター長の「誰も置き去りにしない」との溢れんばかり

の情熱の結晶だと思いました。

失業や病気、障がい、引きこもりなどの事情から生活に困窮している人は多くいます。有効な支援を受けられなければ、いずれ生活保護制度を利用せざるを得なくなる恐れがあり、早めの対策が欠かせません。「生活に困っているけど、どこに相談していいのかわからない」という声を時々聞きますが、「何かあったら『りんく』に行くといい」という明確な相談場所がある安心感が大事だと感じます。そして、「りんく」が商店街と連携したように、引きこもり・不就労者が社会復帰する前段階で、地域住民とともに地元に貢献できるような仕組みや居場所をつくることは、就労応援に繋がる取り組みになると思いました。本市においても、ワンストップサービスの「よろず相談所」が必要と考えます。

以上